

大島文子(クラリネット)・大島直子(ピアノ)デュオ・リサイタル

歌詞がなくとも「歌」が聴こえる——。懐かしい日本の調べに込められた姉妹の「心」。

ニューヨークを拠点に、国際的に活躍中のクラリネット奏者・大島文子とピアニスト大島直子によるデュオコンサート。叙情あふれる日本の曲をはじめクラリネットの名曲をお贈りいたします。歌詞がなくとも「歌」が聴こえる——。伸びやかにして繊細にうたいあげる、懐かしい日本の調べに込められた大島姉妹の「心」をどうぞお聴きください。

<予定曲>

お菓子と娘(詞:西條八十、曲:橋本國彦)、やわらかに、不來方[こずかた]の、頬につたふ、いのちなき、ふるさとを、あめつちに(以上 詞:石川啄木、曲:高田三郎)、シューマン/幻想小曲集 op.73

箱根八里は(日本古謡、曲:山田耕筰)、かやの木山、待ちぼうけ(以上詞:北原白秋、曲:山田耕筰)、赤とんぼ(詞:三木露風、曲:山田耕筰)、からたちの花(詞:北原白秋、曲:山田耕筰)、荒城の月(詞:土井晩翠、滝廉太郎)、ベッリーニ=L.バッシ/歌劇「清教徒」の主題による“ファンタジー”

※曲目・曲順は当日変更となる場合があります。予めご了承ください。



© yOU

大島文子 クラリネット おおしま あやこ

ニューヨークを拠点に、日本・アメリカ・ヨーロッパで活躍中の実力派ソロ・クラリネット奏者にして、世界でも数少ない古楽器クラリネット奏者。

桐朋学園大学音楽学部を卒業後、アメリカ、イーストマン音楽院に留学。その後、第2回日本管打楽器コンクール第2位、第55回日本音楽コンクール第1位、第17回ベオグラード国際コンクール第3位並びに「ゴールデンハーブ賞」(聴衆と批評家が選ぶベストパフォーマーに贈られる賞)を受賞。

1989年カザルスホールでのリサイタルを皮切りに、日本各地でソロ・リサイタルを開催の他、NHK交響楽団、読売日本交響楽団をはじめ、国内主要交響楽団と多数共演。

夫でクラリネット奏者であるチャールズ・ナイディックとともに古楽管楽器アンサンブル「モツァフィアット Mozzafiato」を結成。ソニークラシカルより多数をCDリリース。2011年には日本初の女性クラリネットアンサンブル「NY リコリッシュアンサンブル」を結成。

姉の大島直子とリリースした「アメリカン・スナップショット」(全曲アメリカ人作曲家によるアルバム)は「レコード芸術」「音楽の友」誌に取り上げられ、朝日新聞では今月の10枚に選出された。

2008年、以前より姉の直子と積極的に取り組んできた「日本の歌」ばかり27曲を集めたCD「十五の心」を、アウローラ・クラシカルよりリリース。言葉を発せられない管楽器で「詩」を奏することに挑戦した意欲作として、注目を集めている。

2011年には、チャールズ・ナイディックと共に2本のクラリネットとピアノのための作品集「イル・コンヴェーニョ」をリリースし好評を博す。

2005年より、毎年夏に北軽井沢において姉直子とミュージックセミナーを開催。

サイトウ・キネン・フェスティバルにも定期的に参加するなど多方面に活躍中。

現在、ジュリアード音楽院講師、ニューヨーク州立パーチェスカレッジ音楽院助教授、及びザ・ハート音楽院講師を務める。

大島直子 ピアノ おおしま なおこ

14歳で渡仏し、エコール・ノルマルでジャック・ジャンティに師事。帰国後、遠山慶子に師事。フェリス女学院の音楽科に入学し、山岡優子に師事。中退して再びフランスに渡り、イボンヌ・ロリオ、ジェルメーヌ・ムニエに師事。フランスを代表する名ヴァイオリニスト、ジャン＝ジャック・カントロフと38回共演し、絶賛を博す。

また妹の文子(クラリネット奏者)とのデュオは、アメリカのボードイン音楽祭、日本音楽コンクール、さらにベオグラードでのリサイタル、あるいはラジオ・テレビ出演などで聴衆に鮮やかな印象を与え、高い評価を確立した。また、スイスならびに日本におけるロームミュージックファンデーション音楽セミナーに専属伴奏者として毎年参加した。

2005年より、毎年夏に北軽井沢において妹の文子とミュージックセミナーを開催している。

姉妹デュオによるCDには、アメリカ人作曲家の作品を集めた「アメリカン・スナップショット」、日本の歌ばかり27曲を集めた「十五の心」、また最新盤には、世界的なクラリネットの名手であるチャールズ・ナイディックを迎えて2本のクラリネットとピアノのための作品集を収録した「イル・コンヴェーニョ」等があり、いずれも高い評価を得ている。

現在に至るまで日本国内を始め海外でも意欲的な活動を続け、数々の演奏家の伴奏者、室内楽奏者として活躍している。



© Kevin Hatt